

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800419		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市 鴨生94-19	TEL	0948-42-7578
自己評価作成日	平成 23年07月15日	評価結果確定日	平成23年08月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年08月05日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地にデーサービスなどと、併設して建てられている。地域に根ざしたホームを目指し「けやきでよかった」と言っていただけのように入居者第一で頑張っている。地域の皆さんに気軽に遊びに来ていただき、触れ合う機会を持つようにしている。季節を感じていただく為、外出の機会も多くとり入れている。花や野菜を植えて一緒に育て収穫して食卓にだしたりして、楽しみごとの工夫をしています。看取りの体制も取れるようになり、ご家族も寄りいっそう、「安心」の言葉を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合福祉施設併設の「けやき」は、住宅街の中に、平屋建て2ユニットで、全室南向きの明るいグループホームである。「地域と触れ合いながら、利用者の尊厳を損なわず、家庭的な生活が安心して送れる」を理念の柱とし、管理者は職員全員に理解してもらい、充実した介護サービスの実現を目指している。地域の行事参加や、ホーム主催の七夕会、敬老会、秋祭り、クリスマス会等、交流の場を設け、だれでも気楽にホームに立ち寄れる雰囲気は、家族や地域住民と信頼関係を構築し、交流の輪が広がっている。ホーム内に、リハビリの機器を設置し、利用者の心身機能維持向上を図り、自立支援に向けた取り組みは、職員の励ましと、利用者の頑張りで充実した日々になっている。また、中学生の体験学習や、保育園児の訪問は、利用者の楽しみのひと時である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者第一の基本理念のもとに常に意識する事を職員に伝え実践的につながるように努めている。	ホーム理念は常に利用者第一に、家庭的な環境の下で尊厳ある生活ができ、地域と触れ合いながら過ごし、利用者や家族が満足出来るよう、目指す方向を明確にし、職員全員で実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕会、敬老会、秋祭り、クリスマス会と地域の方々とのふれあいを、より一層充実させている。	利用者、職員は、地域の行事に参加し、ホームの行事に地域の方を招待する等、活発な交流が始まっている。また、保育園児の訪問や中学生、高校生の体験学習や実習の受け入れ等を通じ、利用者は出会いを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの見学やボランティアにみえた方々に理解して頂ける機会を取り入れて支援方法に活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の推進会議も活発な意見交換が行なわれ、サービスにつながるようしている。	運営推進会議では、利用者の状況や活動報告をし、参加者からの情報や質問を積極的に聴いている。地域の行事への参加やボランティアの訪問等、サービスに反映させたものも多く、充実した会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員に介護サービスについての取り組み、相談をして頂いている。市主催の講習に参加できる時は、行くようにしている。	地域包括支援センターや市の担当者と常に連携を図り、情報の交換や、助言を受けて、協力関係を築いている。市の介護相談事業を活用し、利用者や家族の相談に対応している。市主催の研修にも積極的に参加し、情報を得ると共に知識を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	なぜ身体拘束がいけないのか、勉強会を開催し拘束をしないケアを目指している。	月に1度身体拘束委員会を開催し、身体拘束することなく、安全を確保する為の具体的な取り組みを話し合っている。昼間は、全ての出入り口には鍵を掛けていない。隣接する事業所との連携を密にして、利用者を拘束することなく安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議により話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度など職員に資料等を配布や勉強会に参加し、いつでも活用できる方がいれば、支援できるようにしている。	利用者が制度を必要とする時に、利用者や家族に説明できるよう、外部や法人内研修に参加し理解を深めている。入居時は利用者家族に説明している。現在制度を利用している利用者はいないが、資料を備え、いつでも活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にわかりやすく説明を行い、家族が納得された後、同意をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や個別面談により、意見、要望を聞いている。市から介護相談員も訪問して頂いている。	家族会の開催、意見箱の設置、運営推進会議への家族の参加、市の介護相談員の訪問等、利用者や家族の意見を聴く機会を多く設けている。また、利用料の支払いも家族との面談の機会ととらえ、持参時には、積極的に意向を聴きサービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の時に、職員の意見を取り入れて、よりよい介護につながるように、意見を反映させている。	会議やミーティング等で職員の意見を積極的に聴いている。時には予定時間をはるかにオーバーして白熱した議論が交わされる等、働きやすい職場作を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議にて意見交換をし職場環境が良くなるように話し合いをしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては特別に区別はしていない。各自、職員の特徴を活かしながら、自己実現ができるように配慮をしている。	職員採用は、性別や年齢などの制限は設けていない。勤務表の作成時には、意向を聞いている。資格取得を目指すスタッフには、勤務を考慮するなど積極的に支援している。休憩室やロッカー等はあるが、休憩は利用者と一緒に取ることが多い。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的なミーティングにより、何事にも人権、尊厳を尊重し最後までその人らしく過ごして頂けるように勉強をしている。	利用者の尊厳を理念のトップに掲げ、研修会や学習会でも取り上げているが、活用しやすい記録の工夫が足りない部分があり、検討中である。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修や介護講座等の社外研修に参加し介護技術の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者との情報交換を行い、良いと思う事は、実践につなげるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より情報を聞いたり、密にコミュニケーションをとり、本人の思いを理解できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへ見学をしていただき、要望等を細かく伺い状態の把握に努め、情報はできるだけ知るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困り事や不安な事は何か、必要としている支援は何か、何でも相談ができる雰囲気作りをし面談ができる機会をできるだけ、多くとれるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をする事も大切であるが、家庭的な雰囲気を大切に共に支えあう日々を送れるようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日会や各行事に、声かけて家族の方に参加をしていただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や理髪店等、馴染みの店を利用して支援を断ち切らないようにし、本人が望まれることや一時帰宅など家族と相談して協力を得るようにしている。	利用者の馴染みの理・美容師に訪問を依頼したり、馴染みの人や友人が訪問しやすいよう橋渡しをし、馴染みの関係が途切れないよう支援している。利用者の夢や希望を聴き、出来る範囲で個別に対応している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会で一緒にお祝いをしたり、紙粘土教室等の毎日のレクリエーションの中で、心を開いてゆかれる機会を設けて、助け合いながら生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去となった家族の方にお見舞いに行き、状態を聞いていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴や個性を大切に、本人本位の生活が送れるように支援している。	利用者それぞれに職員の担当を決め、意向が表しやすいようにすると共に、ちょっとした変化や、つぶやきも聞き逃さず、自発的な言葉を待つようにしている。「3ヶ月もすると利用者の意向が大体分かります」と、スタッフは利用者の状況を常に細かく把握し、寄り添いながら支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをとる時に、家族の情報提供等を取り入れて、職員が把握できるようにし、入居者にあった生活が出切るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイル、体調を把握して無理のないように過ごされるよう、本人本位の過ごし方をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で、気づきを話し合いそれぞれの意見を聞いて介護計画を作成している。	日々の関わりの中で得た利用者の情報や、家族の面会時の情報等を記録に残し、話し合い、計画を作成している。介護計画は3～6ヶ月ごとに家族に開示し、利用者の状況の変化時には、その都度計画を見直し、現状に即した計画になるよう変更している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察にて個人記録に記入し状態の変化を把握して計画の見直しを行なっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ細かに納得して頂けるように支援している。家族の代わりに通院介助をしたり、希望される物があれば、職員が買物をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館等で行事がある時は、声かけがあると出かけて地域の人とのふれあいを大切にしている。ホームに盆踊りなど来て頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が信頼している病院との連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関に受診する利用者が多いが、利用者、家族の意向を尊重し、かかりつけ医への受診支援もしている。職員が付き添い、結果は家族に報告している。調査当日も利用者が発熱し緊急受診となったが、時機を選ばず隣接するクリニックに受診する等適切な対応をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護もあり、看護師に入居者の身体状態を報告しその都度、適切な対応、アドバイスを受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、洗濯物などホーム側で取りに行ったり、面会に伺い身体状態の把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをできる体制であり実行している。訪問看護、訪問診療等、協力体制をとっている。	重度化や終末期の対応について文書化し、家族に説明し、同意を得ている。協力医療機関の医師との連携、訪問看護の利用で24時間医療連携が確立し、利用者家族の希望で看取りを実施した。今後のホームでの看取りを考え、問題点を洗い出し、検討している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成しいつでも対応できるように勉強している。定期訓練も行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行いそれを基に話し合いを行っている。消防署立会いで行なうこともある。	年に2回昼夜を想定した避難訓練を実施し、隣接する事業所との連携も図られている。地域住民の参加を得るまでには至っていないが、5分以内に駆けつけることができる職員が3名いて心強い。非常食や飲料水の備蓄も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念どうり尊厳の念をもち対応するようにしている。個人情報に関わる事は、家族に書面にて了解を得ている。	利用者の意向を大切に人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、常に理念を意識して接している。個人情報の保護には細心の注意をはらい、個人の記録は鍵のかかる所に保管し、実習生には個人情報に関する同意書を書いてもらうなどしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発せられる言葉を聞き逃さないように努め、つぶやかれた言葉を大切に、できるだけ本人の希望で、自己決定できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	抑制をせず、本人の意のままに生活ができるよう目配り、気配りをしている。本人に希望が聞き出せるように、密にコミュニケーションをとっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に常に一日のメリハリをつけて頂きおしゃれをされる事を支援している。毎日、化粧をされている方がいたり、七夕祭りには、皆さんに浴衣をきていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等、下ごしらえは共に行なっている。時には、食欲のない方には好きな食べ物を聞いて、メニューを変えたりし対応をしている。	利用者の希望を聴きメニューに取り入れている。下ごしらえや後片付けは、利用者の出来る範囲で職員と一緒にしている。菜園で採れたゴーヤや南瓜が食卓に上る事もある。自然の中での食事を計画したり手作りの、しその葉茶を楽しんだり、細かい配慮や工夫がなされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェックしている。入居者の嚥下や咀嚼に合わせて、キザミ食にしたりミキサーにかけたりして対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけをしきれいに洗えない方は介助をして口腔の清潔を保つようにしている。必要に応じて、歯科往診を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、自立を心がけできるだけオムツをはずせるように支援している。排泄パターンを把握して、しぐさやそぶりのサインを見逃さないようにし、声かけ、誘導介助をしている。	トイレでの排泄を大切に、利用者の排泄パターンを把握し、さり気なく誘導している。夜間頻尿の利用者にはポータブルトイレを用意し、オムツの使用を最小限におさえている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて、医師の指示を仰ぎながら内服薬にて調整を行なっている方もいる。野菜を多く食べるように工夫をしたり、個人に合った運動を勧めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に三回、曜日を決めているが入居者の意向、体調を考慮しその都度、対応をしている。毎日、入浴をされている方もいる。浴室は広く車椅子対応になっている。	入浴日は決めているが、利用者の意向に沿って個別に対応し、毎日入浴している利用者もいる。車椅子対応の広い浴室には、大きい浴槽と小さい浴槽があり利用者の状況に応じて使い分けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度、湿度に注意をして、傾眠されている方がいれば、状態に応じて、自室やソファにて休養をして頂いている。体調面にに応じて、休養をしていただくように心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋を備え、いつでも確認をできるようにしている。個人ファイルにて病気や内服薬がわかるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課として花壇の手入れや水やりをされたり、個別にあったお手伝いやレクリエーションを考えて、その方に応じた、楽しみ事やハリのある生活が送れるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム前の敷地は広く玄関を開放しているので、戸外にでて自由に過ごせるようにしている。地域の祭りや行事の参加で、外出の機会を持つようにしている。	ホームは車の通りから奥まった位置にあり、敷地も広く自由に戸外に出て散歩や日光浴を楽しむことができる。また、季節ごとの花見や地域の祭りや行事への参加等、外出する機会が多い。遠出の際は家族にも声かけし、一緒にでかけている。年々全員での外出が厳しくなっているが、個々に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行かれた時は、お金が使えるように支援している。お金の管理が難しくなった方が多く所持している方は少ないが、希望があれば使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	最近、手紙を書かれる方はいないが、電話はいつでも、かけられる様にしてあり、毎日、電話をされている方もいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾りを変えたり、写真を飾ったりしている。庭で、野菜や花を育てている。家庭的な雰囲気を壊さないように心がけている。	広々としたホームの敷地内には、菜園や花壇があり季節の野菜や花が植えられている。玄関には利用者や職員の手作りの作品が飾られ、トイレ、浴室はバリアフリーで手摺が取り付けられている。季節の飾り付けや利用者の作品がいたるところに飾られ、居心地よく過ごせるよう細かい配慮がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、玄関の外に長椅子を設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れたなじみの物や家具を持って来て頂いたり、本人の自由に居心地良く過ごされるようにしている。	全室南向きの居室はどの部屋も明るく、温度、湿度が管理されている。使い慣れた家具が置かれた部屋の壁には、家族の写真や作品が飾られている。収納スペースもクローゼットと押入れ機能を備える等、使い勝手が良いように工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下も広く、歩行時は手すりにて歩く事ができる。段差なく車椅子で対応できる。共通の使用場所には、大きくわかりやすいように目印をつけている。		